



吉本どんど [3]

「日本くん」

「日本くん」

「日本くん」

「日本くん」

備蓄品チェックリスト	
新型インフルエンザ発生後には必要なものが買えなくなる可能性もあります。足りないものは今から揃え始めましょう。また赤ちゃんのいる方は紙オムツなど、リストになくても、状況に応じて準備しておきましょう。	
感染防止用品	☐ 体温計（予備も） ☐ マスク（外科用マスク、市販の花粉・ウイルス防止マスク） ※使い捨てなので一人につき50枚以上用意したいところ
	☐ うがい薬 ☐ ゴム手袋（薄いものと厚いもの） ☐ ゴーグル（目からの飛沫感染防止） ☐ 消毒薬（アルコール・次亜塩素酸ナトリウム）※ブリーチ・ハイターなど ☐ ビニール袋（使用済みのティッシュやマスクを密封して捨てる）
家庭内治療用品	☐ 解熱剤（15歳未満はアセトアミノフェン）※タイレノール・小児用パファリンcII等 ☐ 冷却剤（冷却枕・氷枕・水枕など） ☐ スポーツ飲料 ※粉末だと備蓄に便利、発熱時の水分補給にもよい
	☐ 主食（米・餅・麺類・シリアル・パン） ☐ 菓子類（ビスケット・チョコレート・飴など） ☐ レトルト食品・インスタント食品 ☐ 缶詰（肉・魚・果物など） ☐ スープ、おかゆ ☐ ジャム・ゼリー状栄養補助食品（発熱時の栄養摂取にも） ☐ 冷凍食品 ※ライフラインのストッパもあるので万全ではない ☐ プロセスチーズ、ロングライフ牛乳、スキムミルク
日用品	☐ ティッシュペーパー・トイレトペーパー ☐ 生理用品 ☐ 洗剤・液状石けん
	一般薬 (常備薬) ☐ 胃薬・消毒薬（傷薬）・整腸剤など ☐ その他持病の処方薬（血圧の薬など）
その他	☐ 飲料水（1日当たり1人最低2リットル） ☐ 懐中電灯・乾電池・携帯電話充電器 ☐ ラジオ ☐ 手まわし発電機 ☐ カセットコンロ（ガスボンベ） ☐ 多少の現金 ※石油ストーブも停電時には有効
	無理のない備蓄のコツ ○食品の消費期限が過ったら普段の食事やおやつに使って新たに買い足す。 ○業務用の商品を買っての備蓄も一つの 方法。

【対策編】

新型インフルエンザが国内で発生すると、マスクなどの感染防止用品や食料品などの不足が予想されるので、事前にしっかりとした準備が必要です。

また、自分の実情にあった行動計画を立てておきましょう。

親しい人、また、会社内で

新型インフルエンザが国内で発生すると、マスクなどの感染防止用品や食料品などの不足が予想されるので、事前にしっかりとした準備が必要です。

また、自分の実情にあった行動計画を立てておきましょう。

親しい人、また、会社内で

【対策編】

新型インフルエンザが国内で発生すると、マスクなどの感染防止用品や食料品などの不足が予想されるので、事前にしっかりとした準備が必要です。

また、自分の実情にあった行動計画を立てておきましょう。

親しい人、また、会社内で

WHOによる新型インフルエンザの警戒レベル（フェーズ）区分	
前流行期	フェーズ1 新しい亜型のインフルエンザウイルスは人からは検出されていない。 新しい亜型のインフルエンザウイルスが動物から人へ感染する可能性は低い。
	フェーズ2 新しい亜型のインフルエンザウイルスは人からは検出されていないが、動物から人へ感染するリスクが高い。
流行危険期	フェーズ3 新しい亜型のウイルスの人への感染が確認されているが、基本的には人から人への感染はない。
	フェーズ4 人での小さな集団感染が認められるが、感染はごく限られた地域で、ウイルスはそれほど人に適合していない。
流行期	フェーズ5 より大きな集団感染が認められる。人に完全に適合しているとはいえないが、適合力が増している。 現在はフェーズ5
	フェーズ6 パンデミック（世界的大流行）が発生し、人で感染が拡大している。

一度発生すれば、感染拡大を防ぐのは難しい

新型インフルエンザに対しては、誰も免疫をもっていないうえ、現在は、交通機関が発達して、世界中で人の往来が活発です。そのため、世界のどこかで新型インフルエンザが発生すると、感染の拡大を防ぐのは難しく、短期間で世界中に広まってしまうと考えられます。

現在ではパンデミック一歩手前、新型の発生から大流行までは瞬

現在のWHOによる新型インフルエンザ警戒レベルは「フェーズ5」（下図参照）で、「より大きな集団感染が認められる。人に完全に適合しているとはいえないが、適合力が増している」という状況です。

しかし、この段階で封じ込めがうまくいかなければ、

感染拡大を防ぐのが難しい理由	
●交通機関が発達しており、世界中で人の往来がある。	
●新型インフルエンザに対して誰も免疫をもっていない。	
●感染力が強い。おもな感染経路は飛沫感染・接触感染。条件によっては空気感染もある。	
●潜伏期間（感染してから発症までの無症状の間）から、ウイルスをまき散らすので、自覚症状のないまま、感染を広げてしまう。	

正確な被害予想はできませんが、パンデミックが発生してからでは、対応できないことが多くあります。そのため、最新のウイルス研究から予想される最悪なケースを想定して、事前に対策を立てていく必要があります。

厚生労働省の試算でも死者数64万人！

厚生労働省の想定によれば、ワクチンやタミフルを使用しない条件では、国民の25%（3,200万人）が発症、最大で2,500万人が医療機関を受診、入院患者は53~200万人、死亡者は17~64万人としています。

この試算は、過去の新型インフルエンザをもとにしていますが、現在は、昔よりも人口密度が高くなっていることに加え、H5N1は強毒型（過去の新型インフルエンザはすべて弱毒型）

厚生労働省の試算による日本での被害

人口	1億2,700万人
罹患者数	3,200万人
入院	53~200万人
死者数	17~64万人

地理的条件やワクチン対策などを考慮したオーストラリアのロウワー研究所の国別の被害予測では、スペインかぜをもとにした試算で、日本の死者数を最大で210万人としています。

であることから、より大きな健康被害が出ることも考えられます。

※2008年7月の厚生労働省の専門家会議で被害想定をより高く見積もる方向で再評価することが決まりました。

新型インフルエンザが発生したら通常の社会生活は送れない

新型インフルエンザの発生による被害は健康への影響だけではなく、人々が感染し、医療機関、流通、交通機関、製造業、サービス業などすべての分野で働き手が減ることによって社会活動にも被害や混乱が出ることが予想されています。

スペインかぜの際にも、物流が止まって餓死者が出たり、経済が停滞したりすることで混乱が広がりました。

実際にパンデミックが起きたらどうなるか？



足がつかないのはどうしてか

イラスト：脇坂聡

【ねっ・かなこ】医療ジャーナリスト

海外のどこかで新型インフルエンザの発生が確認されたとき

◆海外のどこかで新型インフルエンザの発生が確認されたとき

◆海外のどこかで新型インフルエンザの発生が確認されたとき

新型インフルエンザが国内で発生した場合、発生後の対策

◆国内で新型インフルエンザの発生が確認されたとき

◆国内で新型インフルエンザの発生が確認されたとき

パンデミック時に想定される被害状況

●数千万人の患者が同時発生し、医療機関に殺到する

●医療関係者や院内にも感染が広がり、医療サービス機能が低下する

●人工呼吸器やベッドが不足し重症者が入院不可能になる

●短期間に相当数の犠牲者が出る

●一般企業の閉鎖だけでなく、ライフライン従事者の発症により社会機能が低下する

●行政機能が限定され、警察、消防等の人員不足により治安が悪化する

●食料品やガソリンなどの流通がストップし、日常生活に支障をきたす

●莫大な経済的損失